

我が国のイノベーションシステムの強化に係る基本的考え方

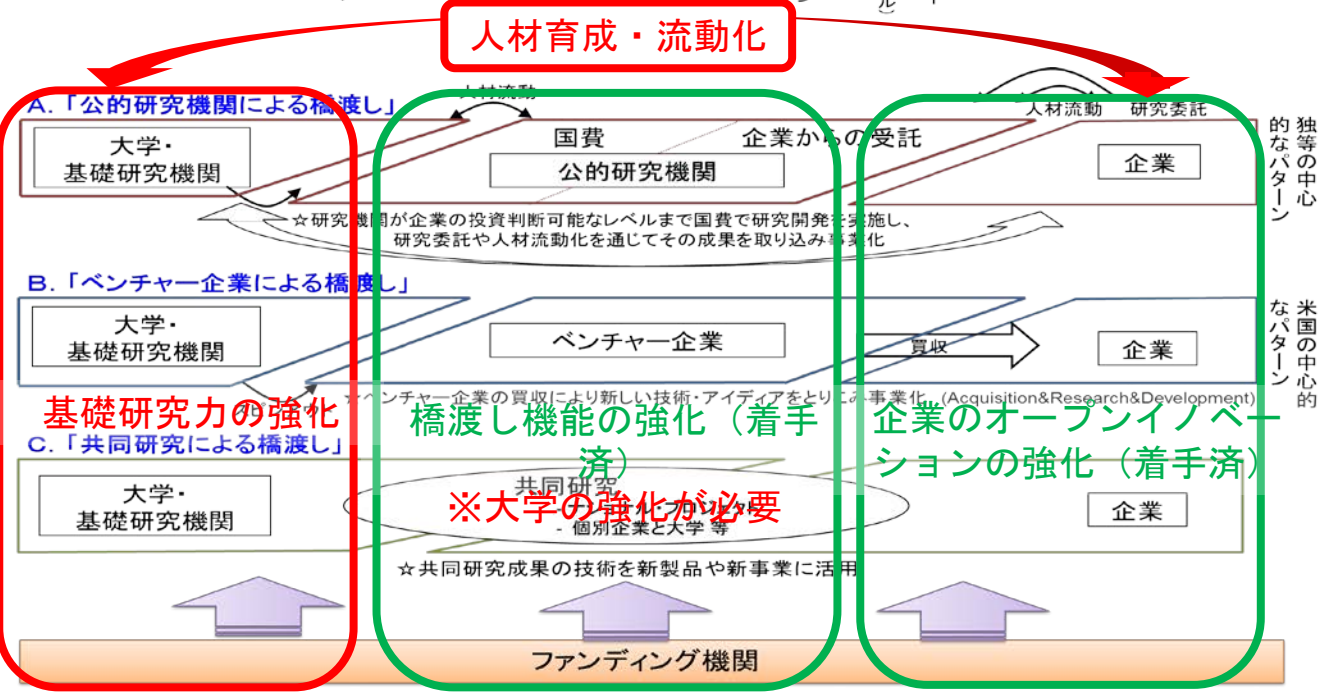
- イノベーションは、産、学、公的機関等多様な主体が連鎖し、様々な工程を経て実現。
- 各主体の役割を明らかにした上で、イノベーションを創出するシステムの構築に向け、事後評価可能な指標を設定して、実効性ある具体策に取り組むことが必要。

基礎研究		応用研究、開発			実証		事業化	
1	2	3	4	5	6	7	8	9
現象の発見 基本理論・ 科学的な	応用的な研究 定式化 原理現象の	技術コンセプト の確認(POC)	研究室レベル でのテスト	想定使用環境 でのテスト	実証・デモン スレーション (システムレベル)	トップユーザー テスト (システムレベル)	パイロット	大量生産

TRL (Technology Readiness Level) の整理

大学
・独創性の高い基礎研究の実施が最大の役割

基礎研究機関
・大規模・組織的研究等、大学では不十分な基礎研究に取り組む役割



企業
・研究開発成果の事業化の担い手
・事業化にあたってのリスクテイク
・オープンイノベーションの積極化
・中堅・中小・ベンチャーの活躍

独自の中心なパターン
米国の中心的

「橋渡し」を担う公的研究機関(産総研等)
・企業ニーズを先取りし、事業化につながる研究を実施
・企業同士や産学のネットワーク化
・企業が利用できる研究開発拠点や共通基盤的施設の整備
・人材の流動化や育成への寄与

ベンチャー企業
・既存企業によるベンチャーの買収等によって「橋渡し」
・国の起業・成長支援も重要

ファンディング機関(NEDO等)
・個別の産学連携では困難な、より革新的で複雑な研究開発のマネジメント
・リスクテイク、多様な主体のネットワーク化